

「赤ちゃんからママとパパへのメッセージ」
テーマ「ぼくたちが育つ環境を守ってくれてありがとう」

ぼくは5ヶ月の胎児。ママやパパに会えるのはまだ4ヶ月も先だけど、いまママのお腹の中で一生懸命大きくなっているんだよ。最初は1個の小さな細胞(受精卵)だったんだけど、9ヶ月の間に何億もの細胞に分れて3kg くらいの身体を作らなくてはならないんだ。身体をつくる設計図はママとパパからもらっているんだけど、受精卵のなかで胎児という形になれるのは、3つに一つもないんだよ。お医者さんが妊娠と確認してくれてからも、15%の赤ちゃんは流産してしまうんだ。流産の原因は設計図の間違いや読み取りのミスもあるけど、栄養とかぼくたちの環境にも多くの原因があるんだ。ぼくたちの環境はとてもきびしいんだよ。ママが自分の健康に注意して毎日ぼくたちを大切に育ててくれているので今日まで育って来れたんだ。とても感謝しているよ。

でも、今、ママやパパが生活している環境は大変だね。昨日もママはパパと粉ミルクの放射性物質汚染の話をしていたね。ぼくたちの健康を真剣に考えてくれているのはとてもうれしいのだけど、あまり心配しないで欲しいんだ。ママが心配しすぎると、そのストレスだってぼくたちの育つ環境を悪くしてしまうんだよ。粉ミルク1kgあたり30数ベクレルの放射性セシウムが発見されたそうだけど、粉ミルクは数倍に薄めて飲むものだし、赤ちゃんの身体の中に入る人工放射性物質の量は僅かでしょう。地球上の生物はすべて自然放射線と共存してきたのだし、今だって、ママの身体からは1kgあたり100ベクレルくらいの放射線(自然に存在する放射性カリウムや放射性炭素による)が出ていて、ぼくたちは毎日それを浴びているんだ。放射線がなぜ身体に悪いとされているのか、その理由を考えて欲しいね。放射線がぼくたちの大切な設計図(DNA)に的中して直接に傷を与える可能性はあるのだけど、それはほんの数%で、90%以上は細胞にできる毒性物質(活性酸素など)が間接的に傷を与えるんだ。同じ毒性物質は被曝とは関係なしに、ママのストレスでもたくさんできてしまうんだよ。ママが毎日、規則正しい生活をして、栄養バランスのよい食事と適度の運動に心がけ、4ヶ月後にぼくと対面する日を楽しみにしていてくれれば、現在報告されている放射線の被曝程度ではぼくたち胎児にはほとんど影響がないんだ。ママやパパには関係ないけど、喫煙や過度の飲酒だって、低線量被曝(100mSv以下)とは比較にならないくらい大きな影響を与えるんだ。広い範囲の東北の方々が今回の原発事故で低線量被曝したことは、ほんとうにお気の毒だけど、この被曝をきっかけに、毎日の健康に注意して生活するようになると、かえって東北の住民のがんの発生率が他の土地より少なくなる可能性もあると言われているくらいなんだよ。

ところで、毎日成長を続ける胎児や子どもは放射線の影響を受けやすいというのは、理論的には正しいんだけど、逆にぼくたちの設計図の傷を治す能力は大人のママやパパよりはるかに大きいんだ。だから子どもには甲状腺癌を除いて一般のがんは起りにくいんだよ。残念ながら生まれる赤ちゃんの5%前後には色々な種類の先天異常や遺伝性の病気が見つかるのだけど、これは自然のバックグラウンドで、昔から変わりが

ないんだ。今回の事故の影響で東北地方で生まれる赤ちゃんに放射線被曝による遺伝的影響がないだろうというのは、過去の調査からも明らかなんだよ。むしろ生活のストレスの影響のほうが心配されているんだ。

でも人工放射線の被曝は本当に必要なもの以外は避けるべきだし、国民のみんなが環境の汚染を心配してくれるのは、ぼくたち胎児にとってもありがたいことだと思っている。色々な事故は起るけど、総体的にみて日本人の食生活の安全性は世界一だし、日本人の美德の一つだよ。だから、ママも安心して毎日の生活をおくって欲しい。もし、どうしても不安がとれないようなら、遺伝の専門家(認定遺伝カウンセラー、臨床遺伝専門医)と相談してよね。その方がぼくも安心して大きくなれるんだ。では、4ヶ月後を楽しみに待っているよ。